



はくろ

白露（7日）… そろそろ秋の空気に入れ替わります …

朝、子どもたちを迎える30分だけでも汗だくになる残暑の日々です。それでも、見上げる青空の高いところに白い刷毛でシュッと掃いたような「すじ雲」を見付けて、季節が秋に移り変わっていく気配を感じました。自然を感じ取る窓口は、あちこちにたくさんあります。

< 鶴鴒鳴 せきれいなく 9月12日～16日 >

白露の次候は「鶴鴒鳴」です。セキレイは水辺を好む鳥で、川の上流で見掛けることが多い鳥です。尻尾を上下にフリフリする姿は見たことがある方もいるでしょうか。

< 答えのない不確実な社会に >

8日の「心の子育て講座」は、人数制限と時間短縮を多くの参加者が残念がる、とても内容の濃い講演会でした。講師の桑原さんから、「グローバル化」「テクノロジーの進化」「多様性の拡大」が進む中で、今の子どもたちは、「答えのない不確実な社会に出ていく」という少し厳しい投げ掛けがありました。一方、社会の現状として入社後一年目の壁は、「できない自分への自信喪失」「周囲にどう思われているか不安」「意味ややりがいを感じない」がトップ3で、この傾向は20年変わっていないとのことでした。

< 答えのない時代はすでに始まっている >

これから子どもたちは、「正解がなく、先が見えない」「余裕がなく、助けが得にくい」「異質な人たちと一緒に働く」という、答えのない不安の時代を生きていくという話でした。新型コロナ感染症に対応している今、すでにその真っ只中にも言えますが、講演会はそこから、具体的にどうすればよいかの話になりました。

< やればできる、困ったときは助けてもらえる >

不安の時代だからこそ、これから大切になるのが「自分の人生を生きるチカラ」であり、そのチカラの源は、「自分への信頼」「人への信頼」だということでした。親は子のことを案ずるあまり、ついつい先回りして口を出しがちだが、それは子どもに対して「信じていない」というマイナスのメッセージを送ってしまっているというものでした。保護者の皆さんからは、「頭では分かっているけれど、できていない」「耳が痛かった」と、多くの方が感想文に書かれていました。

< 子育てはお互いに支え合って >

私自身も3人の息子の親ですが、長男のときは私も妻も若く、親の思いが強かったと思います。そのうち、子どもは親の思うようにはすぐには変わらないことに気付いて、少しずつ待つことができるようになると、家の中の雰囲気は少し軽くなったように思います。その際に、子育て仲間がいたことがどれほど支えになったか知れませんが、子どもが友達をつくるのと同じように、私たち大人も子育ての仲間を増やし、心を開いていけると、子育てが楽になっていきますよ。

「心の子育て講座」

社会に出たときに分かる幼児教育の意味
～自分の人生を生きるチカラ～



リクルートマネジメントソリューションズ
主任研究員 桑原正義氏



大きく傾きながら話を聞く保護者の皆さん



日に日に色や様子に変化するササゲ



ササゲのおもしろさをきっかけに
お話づくりとペープサート遊びに発展